

南牧村花卉生産組合花情報(平成29年6月)

「なんもくの花」

「これ何の花？」
答えは最後で！

群馬県南西部の山間の地「南牧村」では、平均年齢70歳の18名が50種類を超える宿根草や花木などの切り花を生産し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。

『現地検討会』

5月の現地検討会に、最近新たに出荷を始めた大手市場が訪れました。新規花材の出荷方法など様々な指導を受けました。市場担当者は、良く管理されている畑に感心した様子で、「南牧のナチュラルな風合いの花」への期待を寄せていました。

【現地検討会の様子】→



『NEW! スターチスの出荷始まる』

村から借りた温室で、試作で導入した「スターチス」の出荷が始まりました。初めての開花を迎え、市場仲卸担当者に来てもらい、出荷方法の検討会も行いました。

【スターチス出荷方法検討会】→



『フサスグリの出荷間近』

「なんもくの花」の初夏を告げる実物商品、「フサスグリ」の出荷が近づいてきました。緑でも赤色でも透明感があってとても綺麗です！ご期待ください。

【出荷間近のフサスグリ】→



←何の花クイズの答え「ヒペリカム」
(アレンジにも大人気！
南牧の7月主力の実物商品です！)

